

～ 補助人工心臓看護エキスパートナースの役割と活動 ～

補助人工心臓（VAD）とは、内科的治療が限界となった末期重症心不全の患者に対して、心臓移植を受けるまでの橋渡しを行う治療の一つです。臨床での使用が開始されてからまだ10年ほどしか経過していない治療です。このVAD治療が開始される前の末期重症心不全の患者は長期間の入院を余儀なくされ、自宅へ帰る希望が叶いませんでした。私はこれまで心臓病によってつらい思いをしている患者、家族を数多く見てきました。このようなつらい思いをしている患者に対して、少しでも力になりたい、支えになりたいと思い、専門的な知識を有する「人工心臓管理技術認定士」という資格を取得しました。

VAD治療の主なケアとして、身体的なケア以外にも、情報提供や意思決定支援、手術後の創部、貫通部のケアからリハビリ、在宅環境整備や家族への指導、継続した外来通院が必須となります。そのため、各病棟から集中治療室、外来へと継続したケアの提供を行っています。また、退院後の生活援助として、在宅療養へ安全に移行できるように家族への教育や訪問看護との調整も行います。さらに社会復帰支援として、職場や学校への講義や説明も行い、VAD装着患者が社会にスムーズに復帰できるようなお手伝いもしており



VAD機器チェックの様子

ます。このような活動を部署、組織横断的に行うため、エキスパートナースを取得しました。これらの治療は一概に看護師だけの介入だけでなく、医師をはじめ、理学療法士や臨床工学技士、薬剤師や栄養士、また、地域医療など多職種の連携によって成り立っていると思っています。

これまでの活動を通して、まだまだ世間的にも知名度の低い治療である、VADの治療や知識を普及させることで、患者がよりスムーズに社会生活へ戻っていけるようハードルを下げる重要な責務を担っていると痛感しています。

VADを装着した患者が在宅へ戻り、学校や職場へ復帰していく姿を見守ること、また、無事に心臓移植を受ける日を迎えらることに大きなやりがいを感じながら日々精進しております。